

読者から

## 札幌 Wさんの **猫ねこ展** —猫と過ごした時を描く—



11月8日(火)～13日(日)  
10:00～18:00(最終日16:00)  
札幌市資料館 ミニギャラリー1室

沖縄 中さんの2男 Yくん8ヶ月  
はっけよーい のこつた



初めての「つかまり立ち」記念!  
沖縄では、高江で機動隊員が「土人」  
発言をしました。黙っていられませ  
ん。「Yくん、寝そべっている暇はな  
いよ、立ち上がろう」 そしたら 工!  
工! 工! おみごとでした。

## 11月の講演・集会案内

- ◆11月5日(土)アムネスティ 映画上映会の振り返り…13時  
北九州閂門宗教者平和懇談会 13回 …14時  
予定テーマ「言葉は力になるか」(市民活動センター)
  - ◆11月17日(木)フクシマの実態を知る学習会…18時30分  
主催/原発なくそう九州玄海訴訟(戸畠生涯学習センター)
  - ◆11月25日(金)黒崎駅前街頭宣伝(八幡西区革新懇)  
戦争法廃止の呼びかけ…18時～19時
  - ◆11月26日(土)渡辺 治講演(生涯学習総合センター) …14時  
憲法をめぐる参院選後の情勢と課題(一橋大名誉教授)

## 世界人權宣言(谷川俊太郎訳)

## 第22条 人間らしく生きる

人には、困った時に国から助けを受ける権利があります。また、人にはその国の力に応じて、豊かに生きていく権利があります。

11月13日(日):イチイチ祈りの会

カトリック  
場所は黒崎教会小聖堂、ミサ後～  
どなたでもお出でください。



日本漫画家協会  
日本漫画家会議

にしやま すすむ  
**西山 遼**

## わたしの体験

【2】

(替え歌をノートに書き込んだ西山さんに、稲佐警察署から出頭命令。絞られて返されたのですが…)

さて、それからというもの何にも悪いことをしていないのに警察に呼ばれたということだけで、マークされるわけです。盗難事件があると警務課から呼び出され「お前やったろう」。こんな分の悪いことはありません。だから自然と戦争反対が体に染み付いていきました。

8月6日、広島に原爆投下。次の目標だった小倉は8月8日の八幡大空襲の煙などで第2目標の長崎へ。

長崎上空に到達したのが午前11時。真夏の暑い日でした。工場へ行き、汗流しながら飯はまだかなと時計を見たそのとき「あ、落下傘から…」と外から声がしたかと思うと、『ピカーン』とフラッシュを何百個も焚いたような光が工場の中を貫きました。爆心地から3.5kmくらいですから爆風がくるのに8秒位。外にいた人は3.5kmでもその爆風で火傷をしています。ガラスは吹っ飛び、機械は全て止まり周りは静寂に包まれました。「逃げろ!」の声で100m先の防空壕に命がけで逃げ込みました。17歳の私の足はがくがく震えていました。

1時頃外へ出て空を見上げると、積乱雲が真っ黒の雲、黄色い雲、紫色の雲、原爆によって見事に彩られて広がっていました。上空からは破片がトロトロと落ちてきます。これには恐ろしい放射能が入っているのですが

そんなことわかりません。それをかぶりながら長崎の北のほうの光景を見ていました。爆心地方向から工場へきていた人々は帰ってよいとのことでしたが、稲佐山より向こう側は火の海で入れません。警察が入らせないようにしていたのですが、かいくぐって実家へ向かった人もいたようです。原爆の火球の温度は6000度、鉄は千数百度で溶けるわけですから人間も溶けて流れます。この日は寮の外で寝ました。

翌朝、工場に行ったら、これから救助班として三菱兵器製作所に行けといわれました。びっくりです。今まであった街が無いのです。遙か先の長崎医科大学、長崎駅が見えるんです。浦上川の川岸のへりに死体が数珠つなぎで浮かんでいました。水を求めて川に飛び込み死んでいるわけです。そこを通り過ぎ幸町まで行ったところで子どもの死体が5つほど輪っかになってあり、それがみなかくれんぼの格好をしているんです。かくれんぼ遊びをしていたのではなく、ピカッと光った瞬間に目を手で覆って熱線でやられて死んだからです。もう死体をばらまいたような、首の無い人、はらわたの出た人、馬の死体…ひどかねえと思いつつ、歩いていると頭の中が空っぽになり何にも感じなくなるのです。人間は戦場にいくとそういう状態になりますね。イラクでも民間人を殺したでしょう。動く影を見つけたら撃つ。そういう戦場での心理は、原爆投下後の後を歩いたときと同じようで、残酷さが残酷として見えなくなります。恐ろしいですね。家族を失った被爆者は本当に悲惨です。

(次号)

7月31日(日) 健和会上津役診療所

## 核のない平和な世界のために!

私たちがいのちとその美しさを護ることができますように!

9月19日から23日まで韓国で行われた「韓日脱原発平和巡礼と懇談会」に参加しました。

出発前の9月12日夜には、朝鮮半島南東部の慶州付近で、最大マグニチュード5.8を記録する地震が発生。震源は、韓国の原子力発電所が密集している地域です。「韓国に地震はありません。」という安全神話が今回の大地震でもろくも崩れました。到着した9月19日夜にも、M4.5の余震がありました。海一つ隔てた韓国と日本です。どちらの国に原発事故が起きたときにその被害に遭うと確信しました。韓国の脱核運動は福島の原発事故がきっかけだそうです。その韓国に影響を受け、日本で2014年に「平和のための脱核

部会」が発足しました。

日本からは司祭・修道者を含め14名が参加しました。今回のプログラムは、朝鮮半島南部の釜山から北部のソウルまで、4日間のバスの旅です。朝鮮半島東部の日本海側を通じて韓国の原発の地を訪れ、脱核の有志・市民グループの皆さんに出会い、交流しました。

9月20日午前中、カトリック釜山大学で開かれた地域活動家の方々との懇談会にはたくさんの人人が参加されました。まず、姜禹一司教の挨拶で始まり、それから、日本側から参加者の紹介と脱原発のための平和巡礼の趣旨と日本の原発運動の流れが話されました。「何よりも大切で、最高の価値あるもの



は人間の命です。核のない世界のため、日本と韓国から連帯して発信し、力を合わせて取り組んでいきましょう。」という姜司教の話が心に響きました。その後、新古里原発5・6号機建設の反対・阻止運動や、核発電所周辺住民甲状腺癌共同訴訟等3つの懸案について地域活動家の方々の発表がありました。昼食後は、古里原発に移動し古里1号機から新古里5・6号機建設敷地まで、釜山の活動家・住民と共に脱原発徒步巡礼をし、夕方には月城原発隣接地域の移住対策グループの方々に会い、生の声を聴きました。

9月21日朝、盈徳に向かいました。盈徳原発誘致反対闘争委員会のメンバーからの話で、その状況を知ることが出来ました。その後、蔚珍原発地域に移動しました。蔚珍は人口約21,000人ほどですが、その海岸沿いに6基の原発があり、今新しく4基が建設中とのことです。海岸で釣りをしている人、近くに幼稚園や商業施設もあり、すぐそばに原発があることに、恐ろしくて背筋が寒くなりました。地域住民の方の話では、子供を含め住民に癌を発症している方が多いそうです。夕方、三陟に向かいました。夜暗くなつての到着後、町の集会所でミサとろうそく集会。ミサの中で「原発事故という悲しい出来事がきっかけで、私たちは出会うことが出来ました。出会いの恵みに感謝し、小さい者同士連帯して、神様の平和のために働きましょう。」というヤン・ギソク神父の説教に心動かされ、今も心に残っています。

9月22日朝、両国の参加者が脱原発への思いを一つ



にして、祈りと共に三陟市郊外の原発の白紙化記念塔から町の中心まで、約3時間かけて脱原発徒步巡礼をしました。美しい緑の山々に囲まれて点在する民家、そして眼下に広がる紺碧の海を眺めながら歩きました。この美しい自然、そして大切な命を核によって壊してはならないと強く心に思いました。

9月23日朝、ソウル市内の聖堂で懇談会が行われました。「平和のための脱核部会」会長の光延神父(イエズス会)より日本脱原発運動の流れや課題、韓日連帯の大切さなどが話されました。

「過去に日本のたどった道が韓国の今に重なるように思える。」という言葉が印象的でした。その後、今回の懇談会を締めくくる脱原発コンサートが聖堂地下広場で開かれ、その中で、Sr.山本の「平和をつくろうトントン」との歌が日本語と韓国語で歌われ、脱原発を願う思いで国を越えて一つになったように感じました。

今回、改めて命の尊さ、人間の尊厳の大切さを心に刻みました。子供達の未来を想い、希望を持ち、出会いと繋がりを大切にして歩みたいと心から願いました。



## 《アムネスティ》下関通信 (2016/11)

10代の来会者は男性1名でしたが、「よく解った」と宝のような一言を残されました。(10/15「太陽がほしい」上映会)。

主催者の不手際でプロジェクター機能の限界が見抜けず画面が白っぽかったに閑らず、会場(約70名)では被害女性の真実の証言への敬意と歴史認識を変え、反戦の思いを強める思いが次々に表明されて、大変温かく幸いな会であったことに、お詫びと御礼を申しあげます。

会場に展示されたアムネパネル「女性と少女の人権」にも関心が寄せられました。「終わらない女性への差別と暴力」(平時も戦時も家庭の中でも、又貧富や

文化の違いに関りなく差別と暴力に直面する女性たち)、「難民の女性たちが直面している問題」(めざす国にたどりつくまで、また避難先でも性的嫌がらせ、暴行、搾取にさらされる。最小限の保

護がないため危険が高い)、「幼くして結婚を強いられる少女たち」(18才未満の既婚者は7億人。13才の少女が5人も妻がいる70才の男性に家計のため結婚させられている例)等。

今回の上映会前にある男性から「下関に元“慰安婦”がいる訳でもないのになぜそんなチラシを配るのか」と詰問されました。結論は「私も女性だから」です。

生物的性差ではなく、社会的性差(ジェンダー)は、有史以来歴史に底流し、男らしさ女らしさの不平等的側面は権力や組織や制度にまで及び、20世紀にゆきついたその象徴的制度が日本の「従軍慰安婦制度」でした。

今や国連は「女性差別撤廃」時代、日本でも「男女共同参画」時代。数千年来の闇の扉を自らの血のにじむ証言で解き放って下さったのが、20世紀アジアのこの悲惨な貧しい老いた女性たちだったのです。

(2016.10.25 アムネ下関、山県)





## 放射性物質の特質(続2)

『放射線』(radiation) というのは、放射性核種の壊変(不安定な原子核が放射線を放出して、より安定な原子核に遷移する現象。崩壊ともいう。)に伴って放出される粒子線及び高エネルギー(波長の短い)電磁波(光子)の総称であります。しかし、「放射線」と「放射能」は同じではありません。すなわち、『放射線』は、放射性元素の崩壊に伴って放出される粒子線または電磁波のこと、アルファー線・ベータ線・ガンマ線・中性子線の4種をいますが、それらと同じ程度のエネルギーをもつ粒子線・宇宙線も含めているのであります。アルファ線はヘリウムの原子核、ベータ線は電子または陽電子からなる粒子線、ガンマ線は非常に波長が短い電磁波です。いずれも気体を電離し、写真作用・蛍光作用を示すものであります。1896年、ベクレルによりウラン化合物から発見されたものであります。広義には、種々の粒子線及び電磁波の総称です。

『放射能』(radioactivity) は、放射性核種(放射性核種とは不安定な核種のことで、放射線を放出することにより安定な核種になろうとするものであり、放射性同位体・ラジオアイソトープ・RIともいう。)が壊変する性質またはその能力のことで、単位時間当たりに崩壊する原子の数(ベクレル)で計られるものであります。

よく『放射化』という言葉を耳にしますが、「放射化」というのは放射線を放出しない安定な核種が放射線にさらされることで、放射性核種に変化することあります。自然界でも宇宙線により炭素14などの生成が起こります。人工的放射化については、キュリー夫人の娘夫婦のイレーヌとフレデリックが初めてポロニウムから生じたアルファ線をアルミニウムに照射し、リン30の合成に成功してノーベル賞を受賞しております。さらに、

『放射化生成物』という言葉は、放射化により生成される放射性核種、あるいは放射性核種を含む物質のことであり、この放射化生成物が崩壊する能力のことを誘導放射能といいます。核種によって放射化による放射化生成物が決まっているので、微量核種の高感度検出に利用されております。

福島原発事故後に福島市で放射線が1時間当たり20マイクロシーベルトという値が出たことがありました。その際に、「胃のレントゲンでは1回で600マイクロシーベルトの被曝をする」などという例を出して、福

島市の20マイクロシーベルトがいかに小さな数値であるかを主張した専門家がありました。しかし、これは全くの大きな間違い、ないしは悪質なごまかしの主張であります。

放射線の強さを示す『シーベルト』というのは、放射線被曝による人体への影響度合いを表す単位のことであり、スウェーデンの物理学者ロフ・マキシミリアン・シーベルトにちなんで付けられたものであります。人体に対する被曝の影響についての度合いを表す単位として旧単位で「レム」という表示が使われてきました。1 remは0.01svのことあります。この『シーベルト』では、4つの異なる値に使われております。それは「1時間当たりの値」、「年間で浴びる値」、「白血病になる値」と「瞬時に浴びる値」の4つであります。したがって、この4つは、当然のことですが同列に比較できるものではないであります。例えば福島原発事故後に発表された福島市の値を年間シーベルトに換算してみますと以下のようになります。20マイクロシーベルト/1時間の場所にいれば一日で24倍になります。それを1週間継続すれば168倍になります。これは約3・4ミリシーベルトとなり、一般人が1年間に被曝する限度として法律で定められている「1ミリシーベルト」をはるかに超える数値となるのであります。しかもその中で生活することになりますと、外部からの被曝と、呼吸による被曝と食料や水などによる内部被曝などのため4倍になります。計算しますと外部からの20マイクロシーベルトと内部被曝の20マイクロシーベルト×3=60マイクロシーベルトとなり、合計で1時間当たりの被曝量は80マイクロシーベルトにもなるのであります。

もっと具体的にみると、外部被曝20マイクロシーベルト+内部被曝60マイクロシーベルト(呼吸20マイクロシーベルト・食料20マイクロシーベルト・水20マイクロシーベルト)合計1時間あたり80マイクロシーベルトとなります。それが365日(8760時間)になると約700ミリシーベルトとなるのです。一般の人の場合には、正確な自分の被曝量を知ることができないし、過去の被曝量も分からぬのであります。ですから、過去の被曝量と現在に浴びている量を記録して管理されている放射線作業に従事している人や医師のもとでの医療行為、患者の健康状態を観察しながら行われるレントゲンやCTスキャン等とはまったく異なるものであります。

医療行為のためや放射線作業に従事している人たちの放射線被曝も決して「安全」なものではなく、「健康に良い」ものではありません。ただ、管理の下に一般の人と区別されているだけのものであります。従って、一

般公衆が原発のトラブルによって被曝する放射線(1年1ミリシーベルト)は、自然放射線(地球上に存在する放射線)・医療放射線(レントゲン・CTスキャンなど)専門職の浴びる放射線(放射能に関する職業に従事している人)の浴びることとは全く異なる概念であり、これを混同して使ってはならないとICRP勧告も述べています。

「原子力の安全」という問題は、突き詰めると放射線の害をいかに防ぐかということです。この「安全」を考えるときに問題になるのが、放射線の種類と透過力のことです。『透過力』というのは、光や粒子線が物質の内部を通り抜けることです。放射線には大きく分けて4種類があるとされており、前述のようにアルファ線・ベータ線・ガンマ線と中性子線です。

『アルファ線』の正体はヘリウムの原子核で、正の電荷を帯び、透過力が弱いもので紙一枚でも防げるとされています。しかし、だからといって決して「安全」なものではありません。アルファ線を出す物質が人間の体内に取り込まれて人体の細胞に付着しますと、長年にわたって染色体や遺伝子がアルファ線にさらされて「癌」などの危険性が高まることになります。『ベータ線』の正体は電子で、これはアルファ線よりも透過力がやや強く、アルミ箔などで防げるほどのものであります。しかし、電子なので当然に負の電荷を帯びています。『ガンマ線』は電磁波の一種で、電気的には中性ですが透過力は強く、かなりの厚さの鉛板などないと防げないものであります。私たちが健康診断の際に使用されるレントゲン撮影で使用される「エックス線」も電磁波で、その性質はガンマ線とほぼ同じであるとされています。しかし、ガンマ線の方がよりエネルギーが高いものであるといわれています。『中性子線』は最も透過力が強く、恐ろしいものであります。この恐ろしさは、あのJCOの臨界事故で見たとおりです。

原子力発電所を設計する際に最も留意する事項にされているのが「中性子線」と「ガンマ線」の『透過力』

で、これが濡れては困る場所は分厚いコンクリート壁などで覆われることになっているのであります。ところが、日本の原発の建設工事にはコンクリート工事に大量の海砂が使われているのであります。そのため、コンクリートの塩害として鉄骨・鉄筋の腐食が起こり、コンクリートにひび割れが発生するといわれております。原発建設工事に海砂を使わない場合でもアルカリ成分の多いセメントを使っております。その場合には化学作用によって砂利などの骨材が「ふくれあがって行く」というアルカリ骨材反応を起こすのであります。また、原発はセメントと砂と石を大量に使って建設されているものです。そのため、セメントのアルカリ成分と水とが「ある種の石」と反応して「ケイ酸ソーダ」を生み出すといわれております。そうすると、次第にコンクリートが膨張してゆき、地震などの衝撃に対する強度が落ちて、コンクリートが自らひび割れしていくのです。さらに、日本の原発は冷却水として海水を使っています。そのため塩害が生じるのです。つまり、日本の原発は、コンクリート工事に海砂を使う、海砂を使わない場合でもアルカリ成分の多いセメントを使う、そして冷却水に海水を使っているのであります。この3つの複合作用によってコンクリートのひび割れが発生、進行しているのであります。このことは、1985年2月に福井県美浜1・2・3号機、高浜原発1・2号機、大飯原発1・2号機、静岡県浜岡原発1号機、福島原発第1・第2の原発機、佐賀県玄海原発1号機など全国15基の原発でコンクリートのひび割れが報告されている事実が証明しております。

人が安心して生きるために、その危険をなくす以外にないのであります。この社会において最も価値の高いものは人間の生命であり、健康であります。それを脅かし、侵害するものは、取り除くことであり消滅させることができます。しかし、日本の原発は放射線の透過力に対する対応が完全なものではないのであります。つまり、「安全」の保障のないものなのです。(続く)

## 分かち合いのひととき

10月23日 13名参加

…… 「信仰者として社会に開かれていく」 -キリスト者と政治のかかわり- ……

福音宣教6月号の記事(上智大学神学部教授、イエズス会社会司牧センター長光延一郎神父著)をもとに分かち合いました。「神との出会いには、自分のうちから外に出ていく事が絶えず求められます。イエスは、関わりを恐れず介入する人でした。あらゆる種類の人々、特に貧しい人、病人、権利を奪われた人、罪びと、敵であるローマ帝国の百人隊長とまで関わりました。」「教会は、必

## 虹の会

次回2016年11月27日ミサ後。  
どなたでもご参加ください。

要な場合には、信仰に基づいて人間の尊厳と人間の真の発展に奉仕する『政治』への参加を願いません。」

「教皇フランシスコの使徒的勧告『福音の喜び』の「出向いて行きましょう。すべての人にイエスのいのちを差し出すために…」を今一度かみしめ、実行したいと思います。」などの箇所が参加された方々の心に響き、豊かな時間を過ごすことが出来ました。

## リレー『平和への手記』

# 差別をなくし戦争のない社会を

④

在日コリアン歴史・文化と平和の語り部



裴 東録さん  
トンノク



ムグンファ堂

「キリスト者・9条の会」の「9条守りたい」定例会(2016年5月28日)

※文責／編集部

敗戦時、約240万人いたと言われる朝鮮人は、混乱の中で祖国へ帰り、また様々な理由で残った人たちが約60万人。その人たちが「在日」と言われる私たちです。私は在日2世。子どもや孫もいますので3世4世。そして5世の人たちもいます。

## 【在特会の差別発言】

私は社会に出てから、指紋押捺拒否で鬭つたチエ牧師と出会い、それに関わる牧師や活動している人たちと知り合いました。デモや座り込みをし、そこから草の根の市民活動に入つていきました。

2013年「在特会」が下関でヘイトスピーチをしました。「道

ちが“売春婦”ですか。悔しいです。80歳を過ぎたハルモニたちが寒風の中で1000回以上も座り込み抗議をしているじゃないですか。(ペーさんは悔しさいっぱいに) 在特会を許せないです。戦争中ならレープしてよいのですか。“聖戦だつた”アジアを解放した“こんな言葉がまかり通るようになりました。私たちの親が身をもつて植民地支配を体験したのです。収奪され悔しい思いを抱いたまま在日1世の人たちが亡くなれば、何も無かつたことにさせられます。筑豊炭坑の強制連行も無かつたことにさせられます。

昨年10月12日、飯塚市のムグンファ堂(靈園内の国際交流広場)に在特会3人が来てビデオ撮影しました。式典が終わり近づいて「公的な靈園の中にこういう碑があるのは許せん。撤去しろ」と、式典代表者の顔前にビデオを近づけました。私が“やめなさい”というと別の方が「ペーさん、あなたは学校での講演活動があるでしょう。彼らに写されるとまずい」と言されました。でも私たちにも肖像権があるでしょう。それをかまわずビデオを撮る

(碑文中の)「15万人? 人数が多い。強制連行? みんなが強制連行で來たわけではない」と叫ぶ。歴史書や林えいだいさんの記録書などで、およそ15万人は事実だとわかつています。それをひっくり返そうとする。本当に困ったものです。由々しき時代になりました。

強制連行は嘘”という本が飯塚市の書店に山積みされています。

2000年当時、市長も含め創意で作ったムグンファ堂を撤去しますと何癖をつけてきます。(次号)

## 編 集 後 記

班監督の話 「20年前留学した時、90%の日本人は中国を好きだと。今90%が中国を嫌いだと。20年の間に何が?」との問い合わせ。領土問題なら歯舞、色丹と千島返還が進まないロシアとの摩擦の方が大きいはず…。南京大虐殺を見解の相違があるとする政府だが、ずっと侵略戦争を美化し続けている勢力が存在する。これに乗じ安倍丸が右に傾き出航した。後はマスコミ操作で、歴史にうとい国民を誘導すれば「中国嫌いだ」が多数に。しかし真実は消せない(瀬下)